

- 研究者の横顔 -

久保田富次郎 (KUBOTA Tomijiro)

主任研究員 農学博士

1964 神奈川県藤沢市出身

1991 農林水産省入省 九州農業試験場

2001 農業工学研究所 その後九州沖縄農業研究センター
を経て農村工学研究部門へ

2026 水利工学研究領域 地下水・水質管理グループ



研究者の横顔

<旅の途中>

小学3年のときに自転車で隣町まで探検に出かけ、小学6年で九州や四国に鉄道一人旅、そして高校時代は写真部へ。以来、カメラを持って旅に出かけるのがMyスタイルです。プライベートの旅でも出張旅行でも、たいていカメラを持参して出かけます。もし、「旅が寛容を教えてくれるもの」(Benjamin Disraeli*)であるのだとすれば、旅は人生のよき道しるべになってくれているはず。*19世紀イギリスの政治家、小説家

最近旅の記憶をときどきメルマガに書かせてもらっています(→)。今もまだ旅の途中です。

メルマガの記事「放浪記」を書くなかで一番衝撃を受けたのは、研究所の敷地から戦時中に多くの若者がゼロ戦で飛び立っていったことを知ったことでした。私自身、同じこの地で彼らのような覚悟を持って、仕事に望んできただろうかと自問してみましたがとてもYesとは言えません。しかし、それでいいような気がします。終戦から81年、戦争のない平和な時代が続いているのですから・・・



右は高校時代の愛用カメラ、左はここ10年ほど使用しているメインカメラです。

或る農業研究員の
放浪記

農工研メルマガ連載中



https://www.naro.go.jp/laboratory/nire/mail_magazine/genre/horoki.html

<がんその後>

前回の横顔(メルマガ100号)では、がんサバイバーをテーマに書きました。当時の私は、手術で胃と食道の一部を失ったことによる後遺症で、食事をするのが苦行になっていました。生きがい(?)だった食の楽しみを無くしてしまったと完全に絶望しかけていたのです。しかし、病から11年、時間は味方です。手術後8年が経過した頃に、気がつけば食事時の痛みも癒え、徐々に食を楽しむことができるようになっていました。これは嬉しい誤算でした。

そして、病気の直後は、海外旅行なんてもはや無理なのではと思っていたのですが、手始めにリハーサルとして台湾旅行へ。その後、タイやオーストラリア、インド、イラン、トルコなどへと徐々に行動範囲を広げつつあります。もうすぐ定年なので、今の夢としては、ゆっくりと南米や欧州への旅に行きたいなあと思っています。